

# 人知れず上紋峠周辺で進む 巨大再生エネルギー開発の実態とは



事業者の(株)グリーンパワーインベストメントが滝上町内で開催した説明会には、町民ら50人ほどが参加。建設にともなうリスクや自然環境に与える影響、地質の脆弱さなど多岐にわたる質問や意見が相次いだ(3月11日)

太陽光や風力などの再生可能エネルギー(再エネ)を活用した発電所計画がもたらす「負の影響」が全国各地で問題化している。道内でも、最近の釧路湿原周辺でのメガソーラー問題や日本海沿岸での洋上風力計画などは、「エネルギーの地産地消」を逸脱する事例といえる。そんな中、オホーツク管内滝上町と上川管内土別市との境界部に位置する上紋峠の周辺で最大50基、出力30万キロワットという、国内では最大規模の陸上風力発電所の計画が浮上した。東京の再エネ大手企業によるもので、事業費は数百億円、10年後の運転開始をめざす。3月中旬には滝上町内で初の住民説明会が開かれ、環境アセスメントの手続きも進む。巨大風力発電計画の周辺を追った。

## 標高800mを超える山岳地帯に最大50基の巨大風車が林立か？

3月11日夜の滝上町文化センター。オホーツク海側と日本海側との分水嶺に位置する標高800メートルほどの上紋峠の周辺での建設計画が浮上した。国内では最大規模になる風力発電所事業の説明会が開かれた。事業者主体は、東京に本社がある再生可能エネルギー(再エネ)企業大手の(株)グリーンパワーインベストメント(坂木満・代表取締役社長)。上紋峠周辺に計画する風力発電所の出力

は、泊原発1・2号機(各59万キロワット)の約半分に相当する最大30万キロワット。4千〜6千キロワット級の風車を最大で50基建設する——という構想だ。現時点で想定する総事業費は数百億円とされる。

設置予定の風車は、1基のローター径が164メートル(最大)、地面からブレード上端までの高さが22メートル(同)という巨大なもの。道立自然公園の天塩岳とウエンシリ岳に挟まれた標高800〜900メートルの山岳地帯に、風力発電機を林立させる計画とされる。

上紋峠周辺の道道61号土別滝の上線は、ヘアピンカーブや覆道が多い。土別方面からの関連機材の搬入は困難なことから、同社は紋別港から現地まで約70キロを陸送する計画を描く。検討中の建設予定地は、すべて国有林内に位置している。

グリーンパワー社は、上紋峠付近2カ所に観測塔を設置し、風況調査を実施中。滝上町と同社は一昨年春から風力発電計画をめぐる協議を始め、今年1月には町議会議員に対する説明を行なった。

この6月には、同社は法律に基づく環境アセスメント「配慮書」を公表する予定だ(上の図を参照)。このため、「大規模な事業であり、住民に対する丁寧な説明を重ねることが大前提。公表前に意見を聴取できる形にしてほしい」という清原尚弘町長の強い意向(別項を参照)を踏まえ、初の住民説明会の開催に至った。

## 建設リスクや環境影響など懸念 事業者の勉強不足も浮き彫りに

先の説明会には、隣接する紋別の市民を含め約50人が参加し、うち10

その先は電力側との協議になる。地元へ供給することは約束できない。

Q. 静かな環境を求めて滝上に移住した。ブレードを運ぶトラックが通るのはわが家の前で、死活問題だ。こんな高い所に風力発電所を造ることは、これまであったのか。

A. 標高800〜900メートルに建設した事例はある。夜間走行については、できる限り配慮したい。

このほか大規模風力発電所の建設にともなう、自然環境に対する悪影響を真剣に危惧する声も多かった。「(予定地に近い)河川には絶滅危惧種のオシロココマが棲息しており、工事の影響が気になる。希少な鳥類がいることも間違いない」

「町内の札久留地区の奥には金鉱があり、掘ると重金属が出る。その問題はどうか」

事業者側は「オシロココマの調査を行ない、濁水の影響と予測の両面に対応したい。バードストライクの問題があるのでオジロワシの飛来状況を調査する」、「金山の話は初めて知った。影響を総合的に検討したい」などと説明。これらの問題点をよく調べず、環境アセスの手続きを

	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029~2036年度
風況調査	風況観測(追加観測機次実施)				
系統連系	接続検討・契約手続き				
環境影響評価	配慮書	方法書	現地調査・予測評価	準備書	準備書
調査・設計・許可	調査・設計 許可事前協議				
事業計画認定	認定取得: 2030~2032年度				
建設工事	建設工事期間4年程度 運転開始2035~2037年度				

グリーンパワー社による事業スケジュール(説明会の配布資料から)



標高 800 m ほど、建設予定地の土紋峠の周辺は国有林が広がる

良で真面目な姿勢は感じられたが、個別の事例に対する認識不足が目立った。地域の環境は住民自身が一番分かっているのではないかと。参加者からも指摘があったが、土紋峠の周辺は安山岩の噴出物で覆われ、急峻な地形が多い。地すべりが発生しやすく、斜面崩壊を引き起こす可能性もある(左下の図を参照)。各地の再エネ問題に明るい「風力発電を地域から考える全国協議会」共同代表の佐々木邦夫さん(石狩市在住)は、土紋峠周辺での計画について、こう指摘する。

進めている実態が浮き彫りになった。オホーツク管内などの野鳥調査を長年続けてきた、紋別から参加した男性は、こう語気を強めた。「土紋峠で事業を行なう覚悟や熱意が伝わってこない。滝上から土別にかけると、自然環境調査の空白地帯。2年程度の(風況などの)調査で何が分かるのか。天塩岳とウエンシリ岳の間に大型風車が立ち並ぶ風景を想像できるか。一帯は8百メートル級を超す山岳地帯、冬季のメンテナンスは厳しいのではないかと」やり取りを通じて、事業者側の善

「一帯には自然度が高い地域があり、(工事中に)さまざまな対策を施しても土砂が流出防止柵などを乗り越え、動植物に影響を及ぼすでしょう。このクラスの大規模風車では基礎工事も頑丈なものにする必要がありますが、20年間の稼働後に基礎部分まで撤去するのは難しいのではないかと。機材などの撤去時に工事車両を入れることで、ふたたび一帯の自然破壊を招く恐れがある」

**士別市での説明会は先送り状態 環境アセスの手続きだけが進む**

この問題は、山岳地帯での建設計

画でもあり、滝上町の説明会の参加者や議会・行政関係者以外には、内容がほとんど知られていない。またまったレポートは拙稿が初めてではなからうか。

該当地域の士別市では、まだ事業者による説明会が行なわれていない。同市の担当者に取材してみると、「人が住んでいない国有林のエリアであり、保安林の転用手続きも進んでおらず、形になるかどうか分からない段階です。士別市には再生可能エネルギーに関する条例があるので、今後、具体的に計画が見えてきた段階で説明会を開きたい(増田晶彦総合政策課長)」

と、のんびりした答えが返った。しかし、(株)グリーンパワーインベストメントは、本号発売直後の4月16日に滝上町の予定地の近隣住民を対象に「再生可能エネルギー特別措置法」に基づく事業計画の説明会を開催する構えだ。6月には環境アセスメント手続きの第一弾となる「配慮書」を公表する予定で、着々と建設準備を進める。

日本自然保護協会(土屋俊幸理事長)は昨年11月、「大型陸上風力発電計画の自然環境影響レポート」を発



土紋峠の一帯は地すべり地形が多い(出典: 防災科学技術研究所の資料)

行した。全国の事業がおよぼす自然環境への影響についてチェックし、再エネ推進のための「あるべき姿」を問うた報告書である。

- ① 猛禽類などの希少鳥類への影響
- ② 生態系などへの影響
- ③ 自然公園内への風力発電の建設について調べたところ、建設予定の陸上風力107件中の「自然環境影響指数ワースト10」に、同社が進める4つの計画が含まれている。

土紋峠周辺での大規模風力発電計画の行方から目が離せない。

## 大規模風力発電計画について滝上町長に訊く

# 情報を公開し住民の合意形成へ 条例制定も含めルール化を研究



(きよはら・なおひろ)1973年、滝上町生まれ。東京理科大学卒業。97年に町役場に奉職し、企画課長や財政課長などを歴任。2023年から現職

のがあります。そのあたりを把握するためにも、環境調査は容認しつつも、調査内容の科学的根拠を鑑みたくて、本町との関わりを判断していきたい。

説明会で挙げた不安や懸念の声に、どう応えていきますか。

清原 茂瀬地区の上水源地やオシヨロコマはじめ希少生物への影響、景観の阻害、夜間輸送の騒音、金山跡地における土壌汚染のリスク、地質面の問題点など、我々の予想以上に住民の懸念や不安の声が多かったと思います。今後、事業者に対し、国のマニュアルに拠るだけでなく、地元の見解を反映した調査をしっかり行なうとともに、町民への誠実な説明を尽くすよう求めていきたい。

また、庁内での情報共有を図り、

**予想以上に多かった懸念や不安**

計画をどう受け止めますか。

清原尚弘町長(以下清原) 滝上町は2022年に『ゼロカーボン宣言』を行ない、脱炭素社会に向け再生可能エネルギー(再エネ)を推進する姿勢は持っています。その上で、今回の計画は大規模なものであり、町民の安全や安心、自然環境を犠牲にしてまで進める事業ではない、という

3月10日の町議会の席上、町長は再生可能エネルギーに関する条例の制定に前向きな答弁をされた旨の地元紙記事を拝見しました。

清原 最近、釧路市などで太陽光発電が問題化したことを受けた質問でしたが、再エネ全般について、災害の防止や住民の安全・安心の確保、地域と共生する事業の普及ということで、今後、ルール作りの整備を研究していく旨の答弁をしました。今回の事業も当然、対象になります。(現在は)今回の事業をきっかけに、ほかの自治体や近隣の情報を集めながら、ルール作りの策定に向けた取り組みを進めていく段階です。

今後、計画内容の告知はどう進んでいくのか?

清原 本来は事業者が告知しなければならぬ問題ですが、今回は事業者側が町に依頼し、回覧板で告知しました。構想について周知はできたのではないかと思いますので、今

後は戸別配布による告知をしていきたい。情報はオープンにした上で(環境アセスメント手続きの)「配慮書」を含めた対応を準備します。また、(同じ計画区域の)士別市には滝上町の意向を伝えてあります。

そのほか、今回の大規模風力発電構想に対する感想・意見を。清原 まずは事業者に徹底的な調査をやっていたら、鳥類に対する影響や騒音、土砂災害リスクなど客観的なデータを確定してもらおう、とそれを基に住民の合意や基幹産業と共存できるかなどについて、皆さんに納得してもらおうことが大切です。再エネは国策として推進されており、利用の促進は本町の皆が理解しています。我々としても町民の納得感がない中で事業が強制されることがないよう配慮し、調査プロセスに町がしっかり介入し、事業者との双方のやり取りをしながら事業に関わりたい。今回の説明会を通じ、町を愛する地域の人たちがたくさんいる、とあらためて認識できたので、双方のやり取りを重ね、地域のことを皆で考える機会にしたい。それが出来れば、未来の滝上のために有意義なものになると思います。

また、庁内での情報共有を図り、

また、庁内での情報共有を図り、